

科目区分：中等教育コース（音楽）・音楽文化コース  
授業科目名：音楽デザイン(1)・音楽デザイン② 合同授業

## 授業の学びを地域にどう生かすか ―複数学年合同授業における工夫と課題―

音楽教育講座 井上 洋一

### 1 音楽デザイン分野のカリキュラム

中等教育コース（音楽）、音楽文化コースの教科専門科目は、中・高一（音楽）免許法に基づく科目区分に抛り、ソルフェージュ、声楽、器楽、音楽理論・作曲法及び音楽史に大別される。音楽デザイン分野の授業科目は、音楽理論・作曲法の科目区分に含まれ、必修科目の「音楽理論・作曲法（編曲法を含む）」を履修後、学年進行に沿い以下の順で履修する。（H28年度以降入学生の場合）

- ①「音楽デザイン基礎(1)」…1年後期
- ②「音楽デザイン基礎(2)」…2年前期
- ③「音楽デザイン(1)」…2～4年後期 ※
- ④「音楽デザイン(2)」…3・4年前期 ※

※重複履修可。ただし、H27以前の入学生のカリキュラムでは重複履修ではなく音楽デザイン①～③としていた。

音楽デザイン(1)および(2)は2～4年生の合同授業であるが、今年度は、中等教育コース（音楽）、中高音楽免許取得を目指す小学校サブコース、さらに平成27年度前入学の音楽文化コース、学教育音楽専修の学生が混在している。

### 2 授業の目的

本授業は音楽作品の創作と発表を通して、創造的な音楽の楽しみ方を学ぶことを目的としている。音楽教育の現場において、創作指導の在り方とその重要性が見直されており、本授業を通して創作の楽しみ方を体験しながら、音楽指導者としての資質や能力の向上を図る。

### 3 授業の到達目標

- (1) 和声法・対位法・管弦楽法などの作編曲上の理論を正しく理解し、必要な技法を選択できる。
- (2) 作品を完成させ、楽譜や演奏として具体的な形で発表し記録することができる。
- (3) 創造的な音楽の楽しみ方を味わうとともに、生涯教育や学校教育への役立て方についてアイデアをもつことができる。

### 4 合同授業実施上の工夫

#### (1) 学年別課題の設定

2年生の音楽デザイン(1)では単一楽章のソナチネ（短いソナタ形式のピアノ独奏曲）を作る。

3年生の音楽デザイン②では、声楽曲（独唱

曲・合唱曲）の制作を基本とするが、音楽デザイン(1)の発展として、やや長いソナチネまたはピアノ以外の楽器のためのソナチネを制作してもよい。

#### (2) 授業形態の工夫

本来、作・編曲の学習は個別レッスンで行うことが一般的であるが、複数学年の合同授業であり異なった課題の学習を行うために、授業回ごとに授業形態を組み合わせ実施した。

第1～4回 一斉授業…音楽演習室

ソナタ形式とソナチネの学習、アナリーゼモチーフおよび第1主題、テキストの提出

第5～13回 個人・グループ別授業…教員研究室

Aグループ…音楽デザイン(1) ソナチネ創作

Bグループ…音楽デザイン② ソナタ創作

Cグループ…音楽デザイン② 声楽曲創作

第14・15回 一斉授業…音楽演習室、大演奏室

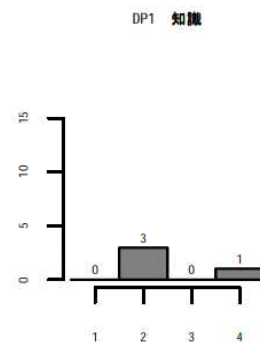
楽譜集作成、リハーサル、発表会（コンサート）



第15回 作品発表会（コンサート）

#### 5 授業評価—DP対応調査をもとに—

2年生の音楽デザイン(1)と3年生の音楽デザイン②では実施したDP対応調査の観点が異なっているが、特徴的な結果をもとに考察した。



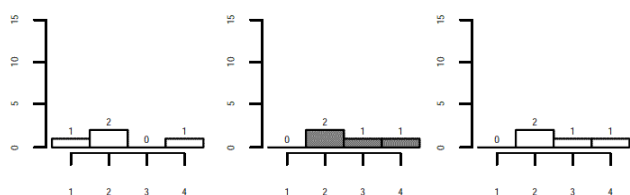
2年 音楽デザイン(1)

2年生の音楽デザイン(1)ではソナタ形式の学習や創作のための詳細な楽曲分析を初めて行ったことから、本授業ではDP1「知識」が一番多い。DP3「思考と表現」、DP2「技能」、DP3「思考と表現」、DP4「主体的学習と社会貢献」にはばらつきがある。

DP2 技能

DP3 思考と表現

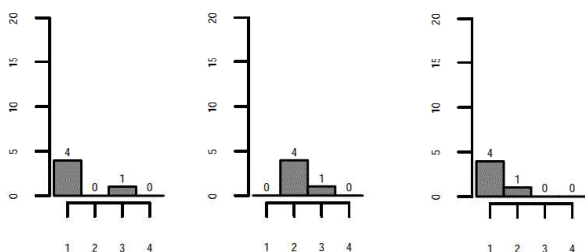
DP4 主体的学習と社会貢献



2年 音楽デザイン(1)

3年生の音楽デザイン②においても、1B「自分の専門分野の知識」が身に付いたとする回答が多いが、2年生と異なり、3A「教育活動に取り組むための技能」、4B「理論と実践を結ぶ主体的学習」の回答も多いのが特徴的である。

1B 自分の専門分野の知識 3A 教育活動に取り組むための技能 4B 理論と実践を結ぶ主体的学習



3年 音楽デザイン②

3年生の履修者の多くは、音楽デザイン基礎①②、音楽デザイン①から継続して履修してきた。彼らにとって、音楽デザイン分野の授業で積み上げてきた学びは、自分の専門とする楽器の技能や卒業研究、さらに将来の音楽指導者や音楽科教員として必要な資質の向上に役立つととらえている。

この2年生と3年生の意識の差は、3年生の半数が附属学校で教育実習を経験していることによるのではないかと推測する。

## 6 地域社会を核とした教育と研究のつながり

来年度の3年生後期は、3年生以上は全員、附属学校で教育実習を経験している。後期に行う音楽デザイン(1)の授業は、初履修の2年生と2回目の3年生(再来年度からは3回目の4年生)による合同授業となる。学年による意識の違いを考慮したグループ編成や課題設定の工夫が必要である。

そこで、地域社会を核とした教育と研究のつながりの観点から、より音楽科教員としての資質向上に役立つような改善を試みたい。

### (1) 一斉授業で行う内容

音楽科教育における音楽づくり(小学校)、創作(中学校・高等学校)で用いられている作・編曲の理論を理解し、実践的方法を試す。

### (2) 個人・グループ別授業で行う内容

教員採用試験では、新曲に即興的にピアノ伴奏

をつけさせる実技試験や、専門教養の筆記試験の問題中に創作に関する問題が含まれることが多い。履修者が選ぶ課題の中に、それらの教員採用試験に直結した課題を入れる。

### (3) 学外での作品発表

今年度、音楽デザイン②で創作した作品「フルートとピアノのためのソナチネ」を、学外の一般団体である愛媛作曲協議会が主催する作品展(自作作曲による演奏会)にエントリーし、発表する履修生がいる。これまでも、音楽文化コースの学生による演奏活動を通じた地域や学校へのアウトリーチはさかんに行われてきたが、その遺産は可能な限り継承していきたい。授業や採用試験対策のために創作するのではなく、自作作曲をより多くの人に聴いていただくことによって、DP4「主体的学習と社会貢献」とも関連を持たせることができると考える。



## 愛媛作曲協議会 作品展 2018

作曲講座「ピアノ曲を作ろう」「続・ピアノ曲を作ろう」作品発表

日時：平成30年3月4日(日) 開場 12:30 開演 13:00

場所：萬草荘 (松山市一番町3丁目3-7)

入場料：無料

### 3. 村上 珠璃

フルートとピアノのためのソナチネ フルート 村上 珠璃  
ピアノ 村上 珠璃

学外団体主催の演奏会プログラム(抜粋)